

# 2020 年度事業報告

## 1. 理事会・総会

日 時	2021 年 3 月 20 日(土・祝)	午後 1 時(理事会)	午後 2 時(総会)
場 所	大阪キャッスルホテル		
議 事	(1) 2019 年度事業報告 (2) 2019 年度決算報告 (3) 2019 年度会計監査報告 (4) 2020 年度事業計画(案) (5) 2020 年度予算(案) (6) 新役員の選出について		

## 2. 第 6 期「市民自治講座」の開講

### □趣 旨

経済的価値観への一元化、人口減少と少子高齢化、都市及び中山間地域の衰退、ポピュリズムの勃興、ナショナルなものへの偏愛や非寛容の精神の跋扈など、危機は今そこに遍在している。

私たちはこれらの動きを、自治と民主主義の危機ととらえ、そのような時代潮流に抗して市民の自立と自律、自主と自治、共感と共生（連帯）を回復していく必要があると考える。このためには、市民が小さな空間を足がかりに、自ら文化を育み、そこからコミュニティや都市を再生していくことを通して、深刻化する社会の問題に立ち向かっていくほかない。その基礎には市民みずからが自治の哲学をつくりあげていくことが必要である。

「市民自治講座」は、これまでに蓄積されてきた人類の知恵から学ぶとともに、熟議を通して、新しい市民自治の姿を思い浮かべ、地域にねざした市民社会のつくり方を学び、市民の手で明日の自治をともに築いていくための基礎とすることをめざして開講する。

なお、第 6 期講座についてはコロナ禍のもとで本年度の開催にいたっていない。引き続きテーマ・講師を選定しつつ、開催方法についても検討したい。

- ・主 催 「市民自治講座」実行委員会  
(特定非営利活動法人 N P O 政策研究所・大阪市政調査会で構成)
- ・講 座 連続 3 回で構成する講座を年 2 回程度開催予定。

- ・会 場 原則として大阪市内（ドーンセンターなど）
- ・参 加 どなたでも。定員 30 人程度。連続参加を原則（スポット参加も可能）。

### 3. 新・大阪の自治を考える研究会（仮称）の活動

2020 年 11 月 1 日に住民投票で大阪市廃止・分割が再び反対多数で否決されたことをうけて大阪の自治を考える研究会は終了したが、その後も維新政治のもとで広域一元化条例の制定など大阪の自治を侵害するうごきがあり、来年春には統一自治体選挙も行われる。一方で人口減少やポストコロナを見据えた都市のあり方についても中長期的に考える必要がある。このような認識のもと、引き続き大阪の自治の現状を考える研究会が新たに発足した。当面は REAL OSAKA や連合大阪有識者会議とも連携しつつ、研究者や市民活動家などゲストスピーカーを呼んでの学習会と内部委員による企画会議・情報交換をそれぞれ交互に隔月で行う。

参 加	大阪地方自治研究センター・自治労大阪府本部 大阪市政調査会など	
経 過	準備会	6 月 17 日（木）午後 5 時～
	第 1 回研究会	8 月 4 日（水）午後 5 時～
	第 2 回研究会	9 月 15 日（水）午後 6 時 30 分～
	第 3 回研究会	12 月 2 日（木）午後 3 時～

### 4. 会誌「市政研究」の定期発行

会誌「市政研究」については、第 210 号（2021 年冬季）では**特集●住民投票を振り返つて**を発行。再び反対多数で政令指定都市・大阪市の存続が決まった 2020 年 11 月の住民投票について、市民・研究者・議員・ジャーナリストなど、さまざまな立場の関係者にそれぞれの視点から振り返っていただいた。さらに住民投票直後からはじまった大阪市の都市計画権限を大阪府に移管する広域一元化の問題点を指摘する論考も掲載した。

第 211 号（2021 年春季）では**特集●外国人支援の現在**を発行。グローバル化が進展するなかで、在留外国人の様々な権利保障に関して日本は国際的にも批判されている。さらにこの間の新型コロナウイルス感染拡大にともなって、雇用労働をはじめとして生活・教育などこれまでも外国人をめぐる指摘されてきた問題がさらに先鋭化・深刻化する可能性もある。特集では、外国人が直面する問題を明らかにするとともに、外国人に対する支援の現状と課題について考えた。

第 212 号（2021 年夏季）**特集●コロナ禍における困窮者支援の現状と課題**を発行。長

期間にわたり、またいまだ先の見えないコロナ禍のなかで、困窮者支援において新たに生じた問題、あるいはコロナ禍によって顕在化・深刻化した貧困・格差などの問題を明らかにし、対策を検討すること必要である。シングルマザー・若者支援や障害者支援、あるいは社会福祉協議会や労働組合による支援などのとりくみを紹介し、そこからみえる困窮者支援の現状と課題について考えた。

第 213 号 (2021 年秋季) **特集●これからの自治体職員**を発行。近年の公務員バッシングもそうであるが、とりわけ大阪市では首長の強引な市政運営によって職員のモチベーションが低下し、あるべき自治体職員像も描けないのが現状である。一方でコロナ禍において自治体職員の役割が見直されるようにもなった。このような状況で、研究者・市民・元自治体職員のそれぞれの視点から、あらためてこれからの自治体職員について考えた。

□第 210 号 (2021 年冬季)

### 特集●住民投票を振り返って

これまでにない市民の動きが大阪市廃止を阻止した 住民投票と学者・研究者	武田かおり 森 裕之
「大阪市廃止に NO」を呼びかけたキャンペーン「残そう、大阪」 市民に隠され続けていた真実	福田 耕 川嶋広稔
「市民の『何とかしたい』という主体的な活動」から住民投票を振り返る 明らかになった大都市法の問題点	武 直樹 柳本 顕
都構想報道に見る維新と在阪メディア なぜ維新は追い風に乘れなかったのか ——コロナ禍での誤算と作戦ミス——	松本 創 幸田 泉

### 図書紹介

フォーラム 労働・社会政策・ジェンダー編 『働くこととフェミニズム—竹中恵美子に学ぶ』ドメス出版	伍賀偕子
連載 なにわ路上観察紀行 第 63 回 東京都港区泉岳寺界限 日本人の琴線をふるわず「なにわ発の名作」に舞台を提供	前田和男
おおさかミュージアム雑感④① 芭蕉終焉の地・大坂	加藤英一
新・韓国通信 韓国風土記⑬ ～「無所不為」の終焉～	金 徳 煥
大阪府・市における広域行政一元化を批判する	小西禎一
市民自治講座 第 V 期 まちづくりガバナンスと市民協働 第 3 回	

協働型ガバナンスによるまちづくりにむけて

新川達郎

□第 211 号 (2021 年春季)

**特集●外国人支援の現在**

日本の労働環境の構造的な問題と外国人労働者  
人権の視点から移住労働者受け入れを検証する

佐伯奈津子  
藤本伸樹

——技能実習制度をめぐる課題を中心に——

入管法改正と仮放免中の難民の生活支援

田中恵子

コロナ禍における外国人家庭の支援

金光敏

——M i n a m i こども教室の取り組みから——

**図書紹介**

外国人支援に関する新刊図書 谷合佳代子

連載 なにわ路上観察紀行 第 64 回 <番外編 4> 東京都港区麻布十番・三田界限

宝塚歌劇は慶應義塾への通学路から生まれた!?

前田和男

おおさかミュージアム雑感⑫

大坂を旅立つ芭蕉

加藤英一

新・韓国通信 韓国風土記⑬

～土地投機～

金徳煥

**シンポジウム記録**

全世代型社会保障改革を徹底検証する

玉井金五／服部良子

森 詩恵／大城亜水

□第 212 号 (2021 年夏季)

**特集●コロナ禍における困窮者支援の現状と課題**

コロナ禍におけるシングルマザーと若者支援の現状と課題

辻由起子／今井紀明

新型コロナ禍における障害者と支援の状況

古田朋也

——行政部門の垣根を超える総合的緊急施策の必要性——

コロナ禍における社会福祉協議会のとりくみ

山口浩次

連合大阪 BACK UP 基金 通称：BUILT (ビルト基金)の創設

連合大阪

——コロナ禍の労働問題支援について——

**図書紹介**

『水脈遠く一五十年風雪の道』椿繁夫著、新時代社

千本沢子

連載 なにわ路上観察紀行 第 65 回 <番外編 5> 東京都西東京市・東伏見界限 「東・京都市伏見」へ改名のススメ	前田和男
おおさかミュージアム雑感④③ 芭蕉ゆかりの地	加藤英一
新・韓国通信 韓国風土記⑮ ～大統領予備選挙～	金 徳 煥
府市一元化条例の合法性を問う ——法定の役割分担の逆転・事務の委託の虚実——	木村 收
関西の広域避難者支援の実践と課題 ——東日本大震災から一〇年を振り返る——	古部真由美
□第 213 号 (2021 年秋季)	
<b>特集●これからの自治体職員</b>	
「野生の思考」の実践 ——今、自治体職員に求められるもの——	嶋田暁文
「標準化」と自治 ——コロナ対策禍の自治体職員が迫られている課題——	今井 照
市民からみたあるべき自治体職員像 ——トクヴィルを通して——	直田春夫
これからの自治体職員に望むこと	田中逸郎
<b>図書紹介</b>	
『労働組合の基礎—五十年風雪の道』仁田道夫・他編、日本評論社	伍賀偕子
連載 なにわ路上観察紀行 第 66 回 京都府福知山市界限 麒麟よ、今こそ、やってこい！	前田和男
おおさかミュージアム雑感④④ 大阪市長の銅像	加藤英一
新・韓国通信 韓国風土記⑯ ～告発状～	金 徳 煥
大阪市立の高校の府への無償譲渡に公益はあるのか ——議決なき巨額寄付の議論は法廷闘争へ——	幸田 泉